

令和7年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく	今年度の重点目標	1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく (1)進路目標の明確化 (2)基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく (1)基本的な生活習慣の確立 (2)部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく (1)学校行事・生徒会活動の充実 (2)教育活動における安全意識・安全技術の向上 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく (1)「地域探究」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 (1)業務の精選と組織的な実施
-------------------	---	----------	---

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [70%程度] [50%程度] [35%程度] [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和6年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> ・生徒アンケート「私は、進路について明確な目標を持っている」「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・保護者アンケート「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」で評価A・B合わせて90%以上となる。	○「総合的な探究の時間」やLHRは概ね計画通りに実施できた。変更にも臨機応変に対応し、進めることができた。 ○1年生:進路適性診断や学部・学科調べを行うとともに、進路ガイダンスや大学訪問、「地元企業に学ぶ」を通して進路意識の高揚を図った。また、類型・科目選択を通して早期のキャリア形成を促した。 ○2年生:地域探究や進路LHRにおいて自身のキャリアに応じた学問・学校研究、業種・分野研究を進めた。 ○3年生:総合的な探究の時間を活用し、将来のキャリアを意識した進路指導を行うことができた。丁寧な担任面談と個別指導により生徒の進路実現が達成できた。 ○学年団と連携しながら、地域のボランティア活動や夏季休業中の保育・看護体験、大学等の研修会への参加を推奨し、多くの生徒が参加した。高大連携事業である大学進学研修プログラム参加(3年生延べ21名)、部活動単位や社会探究類型生徒によるボランティアの参加があり、地域社会とのつながりを実感する機会が増えた。 <R6実績>生徒アンケート結果:(A+B) ・「私は、進路について明確な目標を持っている」・・・80% ・「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」・・・84%	○「総合的な探究の時間」やLHRで実施する「進路探究」、「進路LHR」の年間計画及び内容についての見直しを行い、内容の充実を図る。 ○大学・短大・専門学校や教育関連企業、ハローワーク等との連携を深め、教職員・生徒に対して適切な進路情報の提供を行う。 ○担任及びキャリア部教職員による生徒への丁寧な面接を通じて、生徒の進路意識を高め、進路目標の適正化を図る。 ○学校HPを通じて進路指導に関する情報を発信したり、保護者対象の進路説明会、奨学金説明会などを企画・実施することで、保護者の本校の取り組みに対する理解を促す。 ○引き続き、ボランティア活動やオープンキャンパス・学校見学会等への参加を奨励し、生徒が地域とのつながりを実感したり、大学での学びについての理解を深める。			
	基礎学力の向上	○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標> ・生徒アンケート「私は、本校の授業に満足している」「私は、授業に集中して取り組んでいる」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・保護者アンケート「学校は、学力を伸ばすような取組をしている」で評価AとB合わせて85%以上となる。(R5:81%、R6:82%)	○1年生:数・英の授業では習熟度別少人数授業を行い、「わかる」から「できる」授業へ繋がるよう学習支援を行っている。冬季休業中の課外は、未来類型選択者を対象に学習への取り組み方も含め、国・数・英の3教科で実施した。 ○2年生:主に未来・社会・スポーツの3類型に分かれて授業を行い、それぞれの進路目標に応じた学習方法を提示し学習意欲向上を促している。 ○3年生:まず授業で、自身の進路目標達成のために必要な学力を身に付けるよう学習を進めた。課外授業や個別指導も継続的に実施している。 ○全体:授業における校外模試の位置づけを議論し、模試の問題が解けるよう指導を行うようにしている。 ○家庭学習時間調査の有効活用について協議し、より有効に活用できるよう改善を行っている。 ○各学年・教科で「スタディサプリ」を活用し、学習教材や動画を計画的に配信することで基礎学力の定着や資格取得につなげている。 成績上位者への声掛けと、個別指導を行っている。 <R6実績>生徒アンケート結果:(A+B) ・「私は、本校の授業に満足している」・・・89% ・「私は、授業に集中して取り組んでいる」・・・91%	○1年生:個別面談や授業「総合的な探究の時間」、LHRを通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○2年生:類型・習熟度に応じて、家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続し、家庭で学習する習慣付けと弱点補強に努める。 ○3年生:学力の定着や進路意識を高める進路講演会を行うとともに、卒業後を見据えた具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組むよう支援する。 ○全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できる」を確かめる(実感する)のサイクルを回し、学ぶ雰囲気向上に努める。 ○「スタディサプリ」を効果的に活用し、苦手分野克服のための教材(小テスト等)や動画も配信することで学び直しを行い、授業が「わかる」ための支援を行う。			
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標> ・生徒アンケート「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・保護者アンケート「学校は保護者と協力して、生徒に望ましい生活習慣及びルールやマナーを身につけさせるようとしている」で評価AとB合わせて85%以上となる。	○学年団・生徒会と協力し、整理整頓など教室内の学習環境の整備等に努めた。 ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動や登校の見守りを継続して行った。 ○常に保護者への連絡を行い理解と協力を得ながら、生徒指導を進めている。頭髪・服装や遅刻で指導を受ける生徒が一定数いる。 <R6実績>生徒アンケート結果:(A+B) ・「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」・・・94%	○教職員の日々の声かけにとどまらず、保護者への連絡の機会を逃さず行い、基本的習慣の確立、マナー・モラルの向上を図る。 ○定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した認識のもと生活指導を行うとともに、機会を捉えて、生徒の規範意識の醸成を図る。 ○生徒がより良い学校生活を主体的に参画する意識を高めることができるよう、学校の校則(服装に関する事項やスマートフォン校内使用ルール等)の見直しを進める。			
	部活動の充実	○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。スポーツ探究類型の生徒は、講演会や講習会を通してトップアスリートを目指し、意識レベルを高めている。 <指標> ・県大会優勝6部以上、全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ55名(全校生徒の25%)以上となる。※昨年度は70名(全校生徒の30%)	○クラス数・生徒数の減少で、本校単独での団体競技チームの活動継続が困難になる中、男子バレー部が全国大会で活躍し、学校のPRに大きく貢献した。ビーチバレーでも国民スポーツ大会で全国入賞を果たした。 ○2年研修旅行の中で1日目に環太平洋大学、2日目履正社スポーツ医療専門学校・びわこ成蹊スポーツ大学を見学し、上級学校への進学意識を高めた。 ○3年体育コース(23名中)上級学校へ進学希望する生徒は12名おり、その内9名(進学7名、就職先2名)が競技を継続する。 <R6実績> ・県大会優勝6部 ・全国大会出場9部 ・全国大会出場者のべ41名	○スポーツ探究類型の各種講演会を計画通り実施している。競技力向上を促す。 ○トップアスリート講演会及び指導者養成研修を実施することで、現在行っている競技の継続や医療(理学・作業)・福祉系の上級学校への進学意識をより高める。 ○強化指定運動部を中心とし、全国レベルで活躍するために必要な競技力及び人間力を高めるために対話を重視した練習を行う。 ○部活動単位での地域ボランティア参加を促し、地域貢献及び地域活性化を図る。また、学習・ボランティアサークルへの加入を促進する。			

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和6年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・生徒会活動の充実	<p>○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。</p> <p>○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。</p> <p>○スポーツ探究類型の生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○育英祭は、生徒主体で短期集中して準備ができた。初めて小体育館で実施したが、非常に盛り上がった。事後アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。</p> <p>○運動会は雨天のため大体育館で実施し、3年体育コース、2年スポーツ探究類型生徒による集団行動も予定通り行った。室内での開催であったが実行委員等をはじめ生徒の頑張りにより非常に盛り上がった。</p> <p>○球技大会は新執行部の運営に課題を残した。</p> <p>○体育コースの行事については、11月に3年ゴルフ実習を行い、練習会も含めて実施できた。2年生のスポーツ探究類型は、特別活動の中で1月に宿泊ありで3日間スキー実習を開催した。</p> <p><R6実績>生徒アンケート結果:(A+B) ・「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」・・・94%</p>	<p>○生徒会行事をスムーズに進めるため、生徒たちが主体となって運営できるように、早めに育英祭実行委員会を中心に立案・運営を行う。</p> <p>○引き続き、行事ごとにルールを遵守し、生徒が主体となって取り組むよう支援する。</p> <p>○生徒会執行部を中心に「挨拶で褒められる学校」を目指し、朝の挨拶運動を実施し、校内及び校外での爽やかな挨拶に取り組む。</p> <p>○生徒会が主体となり、執行部を中心に教室環境の整備や学校の校則(服装に関する事項やスマートフォンの校内使用ルール等)の見直しを進める。その取り組みを通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識が多くの生徒に身に付くよう促す。</p>			
	教育活動における安全意識・安全技術の向上	<p>○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○救急救命講習は、2月25日に実施。(運動部生徒・教職員が参加)</p> <p>○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月と7月)、2学期に1回(10月)、3学期に1回(2月)実施。その結果は環境保健部と各学年、管理職で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。</p> <p><R6実績>生徒アンケート結果:(A+B) ・「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている」・・・92% ・「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・92%</p>	<p>○避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。</p> <p>○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部員の全員受講を目指して継続していく。</p> <p>○「学校生活に関する調査」は各学期に1回以上実施し、寄せられた情報をもとに速やかに生徒との面談を行い、いじめ対策委員会で協議し組織的に対応する。また、その後も見守り、支援を継続する。</p> <p>○特別支援に関わる生徒や配慮の必要な生徒、不登校傾向の生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、情報収集や情報共有に努め、教職員や外部機関と連携を図り支援会議等を開催し、より適切な支援教育を進める。</p>			
地域を支える社会人として必要な資質が身につく	「地域探究」の発展・充実	<p>○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。</p> <p>○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現につながった。</p> <p><指標> 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「鳥取県(中部/北栄町)について、知識・理解が深まった」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、 ①「人の役にたつ生き方をしたい」が平均5%以上向上 ②「地域の人と協働できている」、「自分からすすんで地域行事に参加しようと思う」が平均5%以上向上 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。</p>	<p>○1年生:地域探究入門は、24時間の活動を行った。「地域を知る」をテーマに、地域の大人と関わることで地域の一員としての自覚を養った。</p> <p>○2年生:地域の方々の協力のもと、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題をみつけ、その解決を考察し、発表にまとめた。12月の中部ハイスクールフォーラムに3名の生徒が参加し、代表として発表を行った。探究活動の中から生じた疑問や課題解決への提言を北栄町高校生議会という形で町に発信した。</p> <p>○3年生:卒業時アンケートにおいて、「「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、昨年度より向上して65%だった。</p> <p><R6実績>生徒アンケート結果 ・1年生:「鳥取県(中部/北栄町)について、知識・理解が深まった」・・・92.3% ・2年生:事前・事後アンケートで、「人の役にたつ生き方をしたい」が平均して9.6%上昇した。 ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域の人と協働できている」、「自分からすすんで地域行事に参加しようと思う」の高まりが平均して10.4%上昇。 ・3年生:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」・・・65% 「地元の魅力をたくさん知った」・・・80%、「地元で働きたい」・・・67% 「地元で暮らしたい」・・・80%</p>	<p>○1年生:探究活動への意欲を高めるために1学期にキャリア意識を高める取り組みを行う。また、「探究入門」の授業を2学期から開始することで、流れが途切れない活動とする。2年次の地域探究につながる取り組みとして、客観的な分析に必須である「アンケート」や「インタビュー」の手法について学ぶ時間を取り入れる。</p> <p>○2年生:地域探究は、各類型ごとに地域課題に応じたテーマ設定を行い、その課題解決に向けて主体的に取り組む、貢献できる内容とする。また、地域の専門家や大学、短期大学からアドバイザーを招き、指導助言を受けることで課題解決に向けた力を養う。</p> <p>○3年生:進路別学習の充実や教職員との継続的な面談により、自らの問題意識や生き方・あり方等を見つめ自己のキャリア目標の明確化を図る。</p>			
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	<p>○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。</p> <p>○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。</p> <p><指標> ・全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。 ・3年生の受験シーズン(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。</p>	<p>○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について確認している。教職員への声掛けを行い、業務内容の聞き取りや業務量の確認をすることで教職員自身の自覚を促し、時間外業務の減少につながっている。</p> <p>○3年生の進路指導を組織的に行うことができるよう、職員会議等で教職員の共通理解を図り、協力体制を整えた。</p> <p>○総合型選抜や学校推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で分担することで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくする工夫を行った。</p> <p><R6実績> ・時間外業務が月45時間を超えた教職員は1人、年360時間を超えた教職員は0人。 ・3年生の受験シーズン(9～12月)における時間外業務で、月45時間を超える教職員は0人。</p>	<p>○教職員の勤怠システム入力を徹底するとともに、時間外業務削減への見直しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。業務内容や業務量の確認をし、業務の標準化を図る。</p> <p>○各部活動の年間計画及び月間計画の見直しを行うとともに、日頃から生徒自身の意識や意欲を高めさせ、限られた時間内での活動の効率化を図る。</p> <p>○昨年度の進路指導で成果の出た取り組みを共有するとともに、3年生の進路指導を計画的・組織的に行う体制を整える。</p>			